



PRINCESS CRUISES

<プレスリリース>

2013年9月13日

初の日本発着クルーズを成功させたプリンセス・クルーズ プログラムを拡充する 2014 年にも期待

(2013年9月13日 - 東京)プリンセス・クルーズは、カーニバル・コーポレーション& plc と同社による初の日本発着クルーズが成功を収め、顧客満足度も高く、旅行会社から熱烈的な支持を得たと発表した。

プリンセス・クルーズの社長兼 CEO のアラン・バクルーは、一般社団法人日本旅行業協会 (JATA) ツーリズム大賞運輸部門優秀賞受賞の機会に東京を訪れ、日本のクルーズ市場拡大に尽力することを強調し次のように語った。

「日本発着クルーズ初シーズンは非常に好調で、日本におけるクルーズの潜在的需要の高さを引き続き確信しています。今後も、日本のクルーズ市場の可能性を最大限に引き出すことに注力します。」

また、初シーズンにおいて日本人乗船客が好むサービスについてより深く知ることができ、乗船客から寄せられた意見に基づき継続的な改善に全力で取り組む、と続けた。

さらにクルーズの最後に全乗船客を対象に実施されるアンケート調査について触れ、この初シーズンに日本人乗船客の半数から回答を得ることができたと述べた。

同調査により、乗船客がプリンセス・クルーズでの体験に非常に満足していることが明らかとなった。回答者の約 8 割がプリンセス・クルーズを再度利用したいと考えており、約 4 分の 3 がプリンセス・クルーズを他の人に勧めたいと回答した。バクルーは、「口コミは、より多くの人にクルーズ旅行をご検討いただくために、有効な手段でしょう。」と説明している。

乗船客はプリンセス・クルーズのサービスについても高く評価した。乗務員によるもてなしが素晴らしいという回答が 4 分の 3 を大きく上回ったほか、客室係によるサービスへの高評価も同程度にのびた。また食事やダイニングサービスについても同水準の高い評価が得られた。

「この結果を大変うれしく受け止めております。本社オフィスの最高幹部から船上の若手乗務員に至るまで、全員がお客さまひとりひとりのご意見を拝読し、2014 年に向けさらなる改善策を模索しています。」とバクルーは述べた。

カーニバル・コーポレーション& plc は先日、日本でのプリンセス・クルーズの認知拡大を図るため、テレビ、新聞、雑誌を通じ大規模な広告キャンペーンを開始したばかりである。

このキャンペーンでは 1989 年に客船「スター・プリンセス (初代)」を命名したオードリー・ヘプバーンを起用している。ヘプバーンは、調査結果によると日本において最も人気の高い映画女優であり、彼女の主演映画『ローマの休日』は、日本で不動の人気を誇る。

パンフレットの表紙や全国の旅行会社に掲示するポスターでも、一貫してヘプバーンを起用している。旅行会社とパートナーシップを結び、広告、ダイレクトメール、消費者セミナーを活用したプロモーションを展開するほか、より豊富な知識で効果的にクルーズ商品を販売してもらうため、旅行会社向けの教育プログラム「プリンセス・アカデミー」も開講した。

(株)カーニバル・ジャパン代表取締役、木島榮子は次のように話している。「多くの旅行会社が当社の取り組みの潜在的なパワーを信じて下さり、すでに何百もの予約という素晴らしい実績を報告して下さいます。2014 年は 2 隻目に大型客船を投入し、魅力的なコースを設定することによって、引き続き日本の皆様にクルーズをアピールしていきたいと思っております。」



プリンセス・クルーズは2014年、2隻目の客船を投入し、3港をホームポートとする日本発着プログラムを計画している。日本のクルーズ市場を飛躍的に拡大させる計画で、約10万人の乗船客を予想している。

この計画の中心となるのは改装された2隻の客船である。「サン・プリンセス」は3,000万ドルの改装を完了したばかりで、日本人乗客にアピールする特別な設備を追加。「ダイヤモンド・プリンセス」でも同様の改装が来春実施される予定だ。

日本で建造されたダイヤモンド・プリンセスは横浜発着、サン・プリンセスは神戸、小樽を発着港とし、2隻で3港を母港に日本発着クルーズを行う。北海道の小樽を母港とするのは外国客船で初となる。2014年4月から10月にかけて、2隻で合計42航海の日本発着クルーズを展開する。10の魅力的なコースは5日間から11日間の日程で、日本、韓国、台湾、ロシアの20港以上を訪れる。

これらの日本発着クルーズでは、さまざまな種類を豊富に取り揃えた食事、多彩なエンターテインメント・プログラム、プリンセス・クルーズの特徴である人気の高いプールサイドの屋外大型スクリーン「ムービー・アンダー・ザ・スターズ」や、最上階デッキにある大人のためのリラクゼーション・スペース「サンクチュアリ」など、プリンセス・クルーズが世界中で提供するサービスを体験できる。

さらに日本市場にアピールするに、乗船客と密なコミュニケーションが必要な主要セクションには日本語スタッフを配置し、食事のメニューにはプリンセス・クルーズならではのインターナショナル料理に加えて和食も用意している。また、カルチャー教室の特別プログラムとして、アート、文化、歴史の講座なども予定されている。

以上

お問い合わせは 株式会社カーニバル・ジャパンまで TEL:03-3573-3610 <http://www.princesscruises.jp>